

事務事業名	交通安全施設整備事業(単独)		所属部局	市民部		単位番号	4036									
			所属課室	みんなでまちづくり推進課		課長名	野澤 淨									
	☐ 実施計画事業		所属担当	交通安全・防犯		担当者名	青沼博文									
基本政策	基本計画	I 情報と連携の都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目						
政策	計画	06 安全な環境づくり	事業区分	01	一般	0	2	0	1	1	1	0	2	0	0	3
施策	体系	10 交通安全対策の強化		☐ 国の制度による義務的事業									☐ 施設等維持管理事業			
				☐ 県の制度による義務的事業									☐ 補助金交付事業			
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 15 年度)		法令根拠	南アルプス市交通安全条例												
	☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)															
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 自治会や学校等から上げられる要望申請書に基づき、交通安全施設(注意看板・強調線・道路鉾など)の設置並び修繕箇所を現場確認を実施した上で対応する。		事業費の主な内訳 (22年度)													
			項目(細節)		金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)							
			消耗品費		79											
			修繕費		135											
			交通安全施設工事		0											
						計				214						

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動

22年度活動実績

23年度活動予定

⇒

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

名称

単位

ア 設置箇所数

箇所

② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

⇒

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称

単位

ア 人口

人

③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)

⇒

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称

単位

ア 安全に通行できると答えた人

%

④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)

⇒

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称

単位

ア

市民・交通利用者

市民が安全に通行できる交通環境が整う

安全に通園・通学・通勤が出来、交通事故の発生を防止する

(2) 事業費・指標の推移				単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	1,297	214	1,145	686	686	686	
	事業費計 (A)			千円	1,297	214	1,145	686	686	686	0
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2	2	
		延べ業務時間	時間	300	300	300	300	300	300	300	
		人件費計 (B)	千円	1,338	1,338	1,189	1,189	1,189	1,189	1,189	0
		(A)+(B)			千円	2,635	1,552	2,334	1,875	1,875	1,875
活動指標		箇所		10.0	12.0	10.0	10.0	10.0	10.0		
		人		72,669.0	72,854.0	72,854.0	72,854.0	72,854.0	72,854.0		
対象指標		人									
		%									
成果指標		%									
上位成果指標				403.0	385.0						

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？

この事業は平成15年の新市合併前より市民が通行する道路の環境改善に努め、交通事故を未然に防ぐため努力されている。

② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？

交通安全施設が毎年新しく設置される、不良箇所の修繕を進めることにより交通事故を防止する上での環境は年々向上している。

③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？

市民から環境を更に向上させるため、新規交通安全施設の設置を要望する申請が提出される。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？

☐ 取り組みしている ⇒【内容！】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由！】

② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)

すでに設置されている交通安全施設の維持管理は今後も継続的に必要であり、新たな発生する交通危険箇所への事故防止策として対応する必要がある。

③ H 22年度に実施した改革改善の内容

事務事業名	交通安全施設整備事業(単独)	所属部	市民部	所属課	みんなでまちづくり推進課
-------	----------------	-----	-----	-----	--------------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 交通事故を防止することは、住みよい安全な環境づくりに結びつく。
	②公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 既に設置されている交通安全施設の維持管理を市民並び各地区に任せることは難しく、収益性の無い事業を民間やNPO法人にゆだねることは難しい
	③維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 交通安全施設の維持管理は、市が市民の交通事故等を未然に防ぎ安全な環境を築く上では妥当と判断する
有効性 評価	④成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 市内に既に設置されている交通安全施設の数が膨大であり、各地域の協力を得つつ修繕等を実施する方法がベストであり、更なる成果を単年度に上げることは難しい。カーブミラー等の設置手順や事務的進め方を変えても、運転者等の意識改革が行われなければ、交通事故は削減できない。
	⑤類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない
	⑥休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 現状の交通安全施設の中には数十年前に設置された施設も多く老朽化並び腐食等が進んでいる施設も今だ存在しているため、安全確保の面からも継続すでである ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 市の資産である安全施設を放置することは不可能である
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 新規設置の交通安全施設は今後ある程度は充足することにもない設置数が削減されると見込むことは可能だが、既に設置されている交通安全施設の維持管理と今後発生する危険箇所への防止対策は継続的に対応が必要のため事業費の削減は難しい
	⑧人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方を見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 事務量については、臨時職員を要求するほどではなく通常業務の一部として職員が対応できる範囲であり、さらなる改善の余地はない。
公平性 評価	⑨受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 安全な交通環境を維持する上で、市が安全な環境づくりと資産管理を実施することは妥当と判断する

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	各地域からの申請や依頼をもとに設置並び修繕を行っていく方法が現状では最善である。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について																								
①																								
②																								
③																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		(5) 事務事業優先度評価結果																						
①		成果優先度評価結果	⑤																					
②																								
③		コスト削減優先度評価結果	⑨																					